みんなの投稿でつくる 地域NEWSリレー

高齢者招待事業を開催 【3/30・日光】

これまで市社会福祉協議会日光支所が主催し、昨年は震災で中止となった高齢者招待事業ですが、今年は各自治会主催の事業になりました。

御幸町は町内の80歳以上の方を招待し、御幸町公民館で開催。振り込め詐欺防止の寸劇や、日光保育園児のお遊戯、にっこうのびのび体操などで、楽しく親睦を深めました。

文・写真：御幸町自治会

交通安全帽を寄贈 【4/12】

今市地方交通安全協会は、新入学児童の交通事故防止と、ドライバーへの交通安全意識の高揚を目的として、今市警察署管内18の小学校の新入学児童に、交通安全帽を寄贈しました。

この日は、手塚会長が市教育委員会に教育長を訪ね、男子用の野球帽と女子用のベレー帽、2種類の交通安全帽を直接手渡しました。

文・写真：今市地方交通安全協会

カタクリが満開 【4/16・今市】

室瀬地内の群落地で、カタクリの花が満開になりました。カタクリはユリ科の多年草で、春に紅紫色の花を付け、根はカタクリ粉の原料にもなります。

市内の野生の群落地は、雑木林の開発などでとても少なくなりました。しかし室瀬では、地元の方が大切に守り続けてきたことで、毎年少しずつ、その数が増えています。

文・写真：秘書広報課

六斎市が7周年 【4/21・今市】

毎月第3土曜日に開催している六斎市が7周年を迎え、記念自玉市として各店で自玉商品を販売しました。また、今後の発展を祈念して風船飛ばしを行い、平成23年度の皆勤賞2店舗、準皆勤賞4店舗の表彰も行いました。

今後もまちのにぎわいを作り出し、地域文化の交流・伝承の場となるような「市」を目指します。

文・写真：にぎわいのあるまちづくり研究会

慶州市女性団体協議会との交流会 【4/24・藤原】

観光友好都市である韓国・慶州市の女性団体協議会が日光市を訪れたことを記念して、歓迎夕食会を行いました。

会場では、慶州市の女性団体協議会による韓国歌謡の披露に続き、日光和楽おどり隊と日光お囃子愛好会による日光和楽踊りが披露されました。歌と踊りの輪で会場は一つになり、和やかな交流ができました。

文・写真：日光市女性団体連絡協議会

西川運動場で記念式典 【4/30・栗山】

市内初の人工芝サッカー場を備えた西川運動場が完成し、オープン記念式典を開催しました。

また式典後に、市サッカー協会加盟チームの主に5・6年生（120名）を対象としたサッカー教室を開催。全国各地やアジアなどで、サッカーの技術指導や啓発活動を行う、トム・バイヤーさんの指導を受けました。

文・写真：栗山公民館

地域のニュースを募集しています!!

このコーナーでは、皆さんから記事と写真の投稿を募集しています。

募集する記事　自治会の催しや、地域のちょっと珍しい出来事、心温まるエピソードなど

※内容によっては掲載できない場合があります。

応募方法　記事に写真を添え、住所・氏名・電話番号を明記の上、持参または郵送、メールでご応募ください。

○記事…140字程度（題名、日付、場所を別に記載してください）

○写真…紙焼きしたものの・デジタルデータどちらでもOKです。ただし、携帯電話のカメラで撮ったものなど、大きくした際に画像が荒れてしまうものは不可とします。

あて先　〒321-1292
今市本町1番地
日光市役所　企画部
秘書広報課　広報広聴係
メール　hishokouhou@city.nikko.lg.jp

日光市で活躍している人、サークルを紹介します

クローズアップ 日・光・人

とち木（ぎ）の会

活動場所　市内各地（市外や県外もあり）
代表者　小西敏正（こにしとしまさ）
問い合わせ先　高橋璋暹（たかはしあきのり）　☎090-3345-9351
ブログ　http://mblog.excite.co.jp/user/tochigiki/

炭焼きなどの環境学習に取り組むとち木の会を紹介します。

会長を務める宇都宮大学名誉教授の小西さんや、事務局長の高橋さんが中心となって結成したとち木の会は、「昭和の孫たちから平成の孫たちへ」を合言葉に、炭焼き体験学習、自然観察学習、遊具作り体験学習の、3つの出前講座を行っています。そしてその中で、樹木や竹などの再生可能な資源を利用する大切さや、自然と共に生きる貴さを教えています。最近は特に、独自に考案し平成23年7月に特許を取得した「竹幼馬（たけくまま）」作り教室に力を入れています。

竹幼馬は、竹馬と竹ぽっくりを組み合わせた遊具です。全国的に問題となる荒れた竹林の再生や竹の有効利用を考える中で、誰でも乗れる遊具として開発しました。幼児でも乗れるという特徴の他、壊れても部材を交換すれば使い続けられること、交換した部材は炭焼き体験に利用でき、二酸化炭素を吸収し炭素を蓄える木の役割への理解が進むこと、遊具の制作に取り組むことで親や祖父母と子や孫との絆が深まることなどの利点があるそうです。特許を申請した理由について、高橋さんは「プラスチック製などの類似品が作られて、竹の利用が進まなくなることを防ぐため」と話します。

今市小学校での竹幼馬作り教室

会では、竹幼馬作りの指導者育成にも取り組んでいます。「高齢者などが、自分の地域の学校や保育園などで孫の世代に教えるということが定着すれば、竹の需要が生まれます。さらに、竹を必要とする人たちと竹林所有者をつなぐ仕組みができれば、所有者も間伐した竹の処分に困らなくなり、竹林の再生につながるはずです」と高橋さん。特許を取得したことで今後10年間、竹幼馬は竹でしか作ることができません。会ではこの取り組みを、県内はもとより全国へ広め、いずれは会の手を離れることを願って活動しています。

取材の日、今市小学校では、先を競うように竹幼馬で遊ぶ子どもたちの姿がありました。そんなとち木の会の出前講座を、あなたも体験してみませんか。

紹介したい人、サークルを募集しています！

クローズアップ日・光・人では、活躍している人、サークルを紹介しています。このコーナーで紹介したい人やサークルの情報がありましたら、ぜひお寄せください。なお、自薦、他薦は問いません。

※掲載にふさわしくない活動内容が含まれている場合、紹介をお断りすることがあります。

連絡先及びくわしくは
秘書広報課　広報広聴係
☎(21)5135